

## 令和8（2026）年度 教育の重点項目

### ◆基本理念 「生涯にわたって生き生きと輝く教育」

～豊かに 人と人がつながり 新温泉町の明るい未来を切り拓く～

「第3期新温泉町教育振興基本計画」の実施から5年目を迎え、いよいよ計画の最終年度となります。この間、「新温泉授業スタンダード5」をベースとした授業改善、GIGAスクール構想による授業のツールとしてのタブレット端末の日常的活用、演劇ワークショップを活用した「非認知能力（自制心、自己効用感、協働性）」の育成事業、教育支援センターを核としての不登校対策や教育相談機能の充実など、直面する教育課題の克服に向けて取り組んできました。

令和8年度には、町内の2中学校と浜坂高校間で「連携型中高一貫教育校」がスタートします。また、公立中学校の部活動の地域展開も前期改革実行期間となります。さらには少子化、学校の小規模化が加速化する中、教育の質を維持する学校のあり方を検討するために、「学校のあり方検討委員会」を「望ましい教育環境整備検討委員会」として再編するなどし、直面する課題に正対し、新温泉町の未来へつなぐ教育の創造をめざしていきます。

#### 1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進

生成AIをはじめデジタル技術の飛躍的な発展・拡大により社会は驚異的に変革をしています。また社会のグローバル化と分断・対立、気候変動に伴う自然災害の激甚化など、先行き不透明で予測困難な時代が到来しています。

そのような中で、学校教育における学びも、「何を学ぶか」（内容）だけでなく、学ぶことで「何ができるようになるか」（身に付ける資質・能力）を明確にすること、そしてそれを育成するために「どのように学ぶか」を重視し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指すことが求められています。

このことを受け、本町では社会課題の発見・解決や持続的な社会の発展・創造に向けた人材育成を図るため、以下の点を重点項目に挙げて取り組みます。

- (1) 「新温泉授業スタンダード5」をベースにした「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくり
- (2) 1人1台端末の積極的活用による探究学習の充実及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- (3) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力の育成
- (4) グローバル化に対応するための英語での活動を重視した国際理解・多文化共生教育の推進

- (5) 子どもが主体性を発揮するための教育・保育の環境づくりや子どもへの関わり方の工夫等の教育・保育の質の向上

## 2 「豊かな心」の育成

コロナ禍以降、不登校の増加が全国的にも大きな課題となっており、本町においても深刻な課題となっています。「新規を生まず、継続を減らす」を合言葉に各校園が取組を進めていますが、中学校期で新規の出現数は増加しています。また発達特性や愛着の課題等により日常的に困難を抱えている子も多くいます。

本町がめざすのは、一人一人のウェルビーイングの向上です。一人一人の子どもが将来の「在りたい自分」「在りたい社会」を思い描き、夢や希望の実現に向かって未来を切り拓く力を培うことをめざします。そのためには、「多様性を尊重し、包摂性のある教育の推進」に向け、以下の点を重点項目に挙げて取り組みます。

- (1) 「新温泉町キャリア教育」の充実・実践
- (2) ふるさと意識を醸成する教育の推進
- (3) 連携による切れ目ない特別支援教育の支援体制の充実
- (4) 「新規を生まないための先行的取組」と「不登校の児童生徒へ自立を促す取組」の2軸での不登校対策の充実
- (5) 非認知能力育成の強化

## 3 子どもにとっての安心安全な学校園の創造と家庭・地域等との共創

発達障がいからのトラブル、愛着未形成からのトラブル、スマホ・SNSの利用によるトラブル等、子どもたちが抱えるトラブルは多様化・複雑化し、教職員の業務もどんどん増えています。これらの課題を解決するためには、学校だけでなく家庭・地域と連携した教育体制を構築することが必須です。

令和5年度に全小中学校でスタートした「コミュニティ・スクール」においては、学校行事の後押しばかりではなく、「学校に行きづらい子どもたちの居場所づくり」や「登下校の見守り活動」等々、学校が抱える課題の解決に向けての協力支援など、地域全体の教育力の向上をめざします。

また、子どもの成長を支えるため「眠育」「食育」などの学校と家庭が連携して行う取組、教育相談を要する家庭への相談・支援事業の充実や関係機関との連携を進めていきます。

「家庭・地域等との共創」に向け、以下の点を重点項目に挙げて取り組みます。

- (1) 家庭と連携した「眠育」の積極的推進
- (2) 「コミュニティ・スクール」を通じたの学校課題の克服
- (3) 教育支援センターを核とした相談・支援機能の充実